

BeFine!

第50期

第3四半期株主通信

2016年4月1日～2016年12月31日

証券コード 6869

シリーズ | フロントランナー 4 5ページ

社内外の“知”を融合する 共同研究開発の推進



アンコール・ワットの朝日(カンボジア)

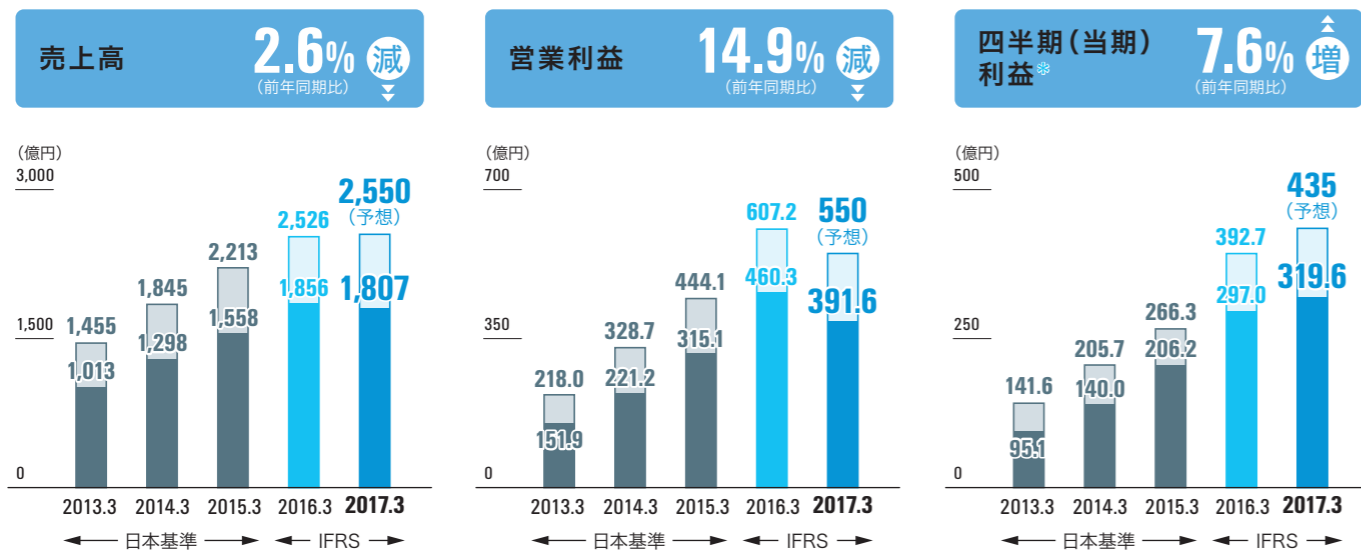
ドル・ユーロ・元などの為替の影響により、 売上・営業利益ともに前年同期を下回りました。

当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。これに伴い、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

IFRS

第50期
第3四半期の
ポイント

- ポイント 1 現地通貨ベースでは全所在地で増収となるも円高の影響などにより減収
- ポイント 2 四半期利益*は日独租税協定改正の影響もあり増益



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの2017年3月期 第3四半期の業績は、現地通貨ベースでは全ての所在地で増収となったものの、円高の影響を受け円ベースでは減収となりました。また、営業利益は販売管理費の抑制に努めたものの減益となりましたが、四半期利益*は日独租税協定改正の影響もあり、増益となりました。売上高は前年同期比2.6%減、営業利益は同14.9%減、四半期利益は同7.6%増となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比10.4%増、営業利益は同4.3%増となります。

国内は、ヘマトロジー分野*に加え、免疫検査分野の売上が伸長したことなどにより、増収となりました。海外は、免疫検査分野や血液凝固検査分野を中心に試薬の売上が増加し、各所在地の現地通貨ベースでは堅調に推移しました。その結果、当社グループの海外売上高比率は82.9%となりました。

なお、2016年11月に公表した2017年3月期通期の連結業績見通しに変更はありません。

当社の子会社であるシスメックス台湾は、2017年5月1日を事業譲受日として、現地代理店の事業を譲受することに合意しました。今回の事業譲受により、台湾での販売・サービス体制を強化するとともに、免疫検査分野などの新たな事業分野への展開を進め、さらなるビジネス拡大を図ります。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



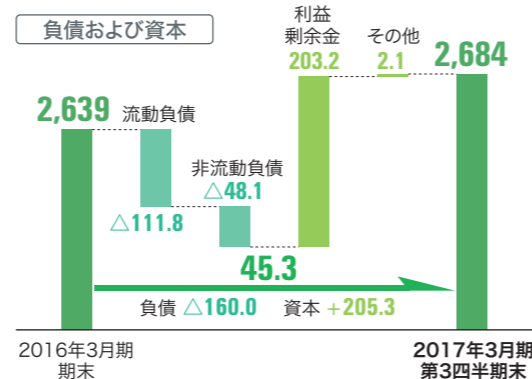
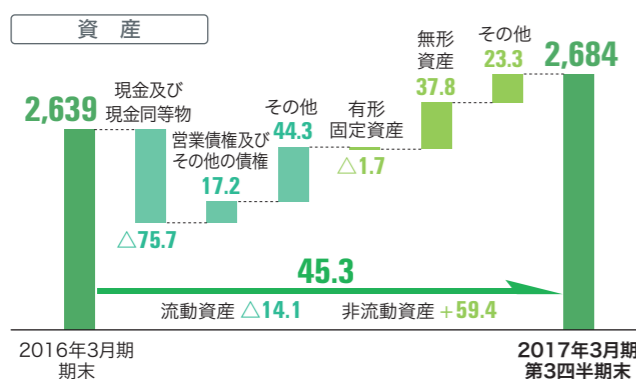
代表取締役会長兼社長

伊蔵 恒

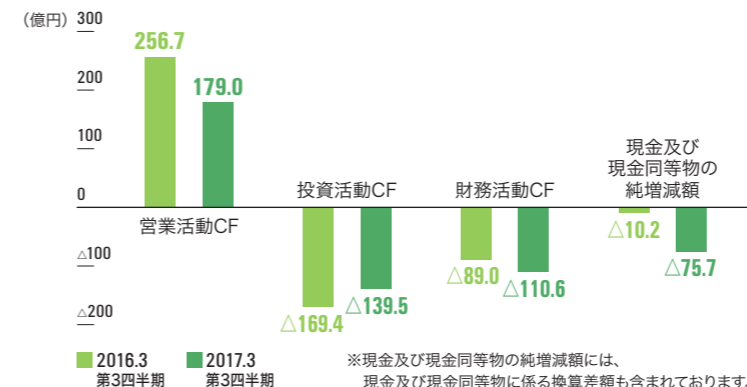
いえず ひさし

【出身地】大阪 【略 歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年に代表取締役社長、2013年に現職に就任。
【趣 味】読書、スポーツ観戦【信 条】「意あらば通ず」

●財政状態計算書の増減要因 (億円)



●キャッシュ・フローの推移



ウェブサイトのご案内

「数値でわかるシスメックス」を公開中!
事業内容・特徴・強みを数値でご紹介!

グローバルヘマトロジー No.1
2マイクロメートル ...など

ぜひご覧ください! www.sysmex.co.jp
企業情報 ▶ よくわかるシスメックス ▶ 数値でわかるシスメックス

1 本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

*四半期(当期)利益:親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益。

*ヘマトロジー分野:血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

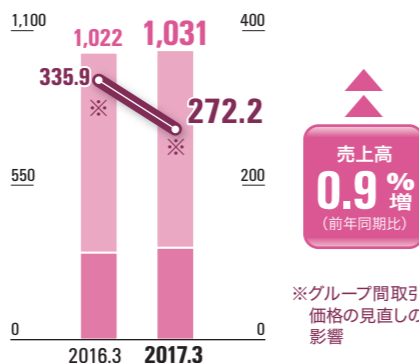
所在地別
セグメント

(為替レート(期中平均)) (円)

	2016年 3月期 第3四半期	2017年 3月期 第3四半期
1USD/円	121.7	106.6
1ユーロ	134.4	118.0

日本

■ 内部売上高 ■ 外部売上高 ▶ 営業利益 (億円)

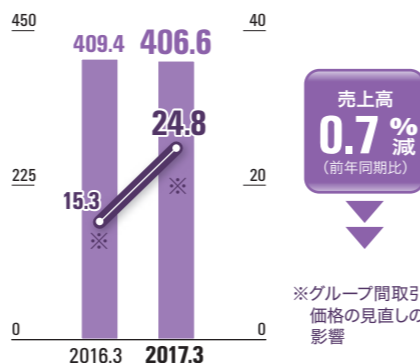


■ 内部売上高: 関係会社への輸出など
■ 外部売上高: 日本のほかに、IDEXX社向けなどの売上を含む。

- 1 日本国内の売上が伸長したほか、理研ジェネシスの子会社化の影響もあり、増収となりました。
- 2 コスト削減を実施するも、グループ間取引価格の見直しや、円高の影響などにより、減益となりました。

米州

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)

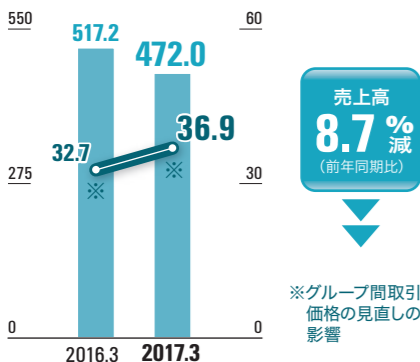


現地通貨ベース 売上高 13.4% 増 (前年同期比) 営業利益 84.6% 増

- 1 米国を中心にヘマトロジー分野*が好調に推移し、現地通貨ベースでは二桁増収となるも、円高の影響により、円ベースでは微減となりました。
- 2 増収効果などにより、増益となりました。

EMEA*

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)

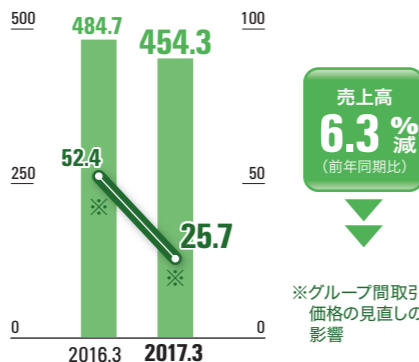


現地通貨ベース 売上高 3.9% 増 (前年同期比) 営業利益 28.5% 増

- 1 現地通貨ベースでは増収となるも、円高の影響により、円ベースでは減収となりました。
- 2 グループ間取引価格の見直しの影響や販売管理費の抑制などにより、増益となりました。

中国

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)



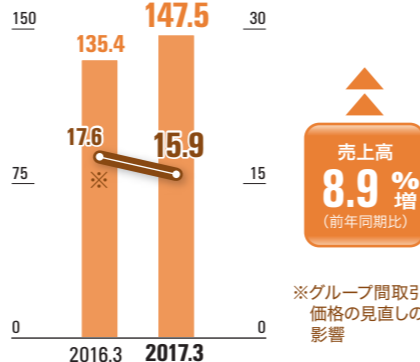
現地通貨ベース 売上高 13.2% 増 (前年同期比) 営業利益 40.6% 減

- 1 現地通貨ベースでは増収となるも、円高の影響により、円ベースでは減収となりました。
- 2 対ドル人民元安の影響で、日本からの仕入価格が上昇したことにより、大幅な減益となりました。

(注) 中国現地法人は、製品の仕入れをドル建てで行っている。

アジア・パシフィック

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)



※アジア・パシフィックについては、2014年3月期より円貨のみの開示としています。

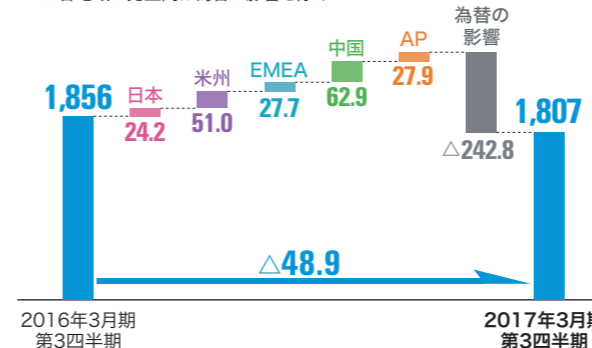
- 1 一部の地域で円高の影響はあるものの、ヘマトロジー分野に加え、血液凝固検査分野、免疫検査分野も好調に推移し、増収となりました。
- 2 機器の売上構成比の増加や円高の影響などにより、減益となりました。

(注) 日本からモンゴルなどへの直接販売は、日本の外部売上高に含む。

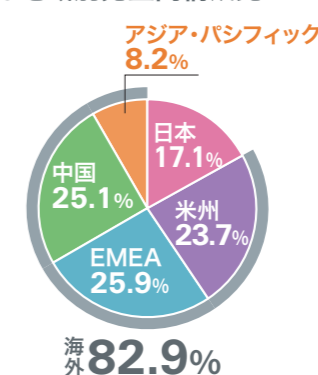
地域別・事業別セグメント

● 地域別売上高の増減要因 (億円)

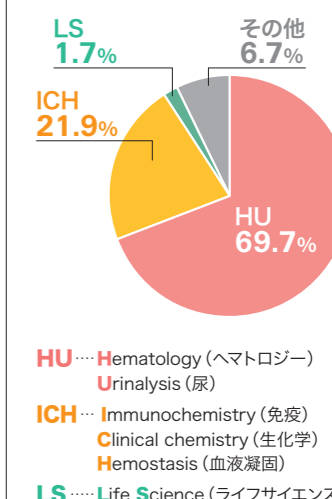
※各地域の売上高は為替の影響を除く



● 地域別売上高構成比



● 事業別売上高構成比



グローバルレポート

アジア各国で検査の質向上を支援

シスメックスは、アジアの新興国・途上国の政府や各学会とともに、検査の標準化を進め、現地の医療水準の向上に貢献しています。

2016年3月には、モンゴルの保健・スポーツ省と、免疫検査(感染症検査)の質向上を支援する活動に関する契約を締結しました。モンゴルでは、近年の経済発展に伴い、保健省を中心に医療インフラの整備や、医療水準の向上に向けた取り組みが進められており、その中で感染症検査の精度向上が課題のひとつとして挙げられていました。

その他、2015年3月にはカンボジアの保健省と、2016年10月にはミャンマーの国家機関であるナショ



モンゴルの保健・スポーツ省との調印式

ナル・ヘルス・ラボラトリーと臨床検査の質向上を目的とした学術支援活動に関する契約を締結しました。この契約のもと、カンボジアやミャンマーで、ヘマトロジー分野において検査室の精度管理を支援しているほか、当社がこれまでサービス&サポート活動を通して培った技術的・学術的ノウハウを、現地の医療従事者に提供しています。

今後も、新興国・途上国の検査の質向上を支援する取り組みを進め、医療の発展に貢献していきます。



2015年度以降の
アジア地域における
主な支援国

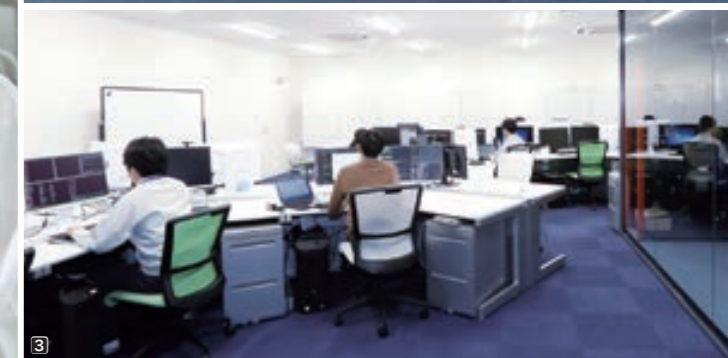
社内外の“知”を融合する 共同研究開発の推進

新たな検査・診断技術をいち早く生み出すため、シスメックスは自社だけではなく、国内外の大学や研究機関・医療機関、企業との共同研究開発（オープンイノベーション）を積極的に推進しています。社外の研究者とともに、革新的な技術の創出を目指す取り組みについてご紹介します。

今回訪問したのは…

シスメックスグループの研究開発の中核拠点
「テクノパーク」(兵庫県神戸市)

「知」の創造と継承」をコンセプトとし、これまで培ってきた固有の“知の財産”を受け継ぐとともに、新たな要素を加え進化させていく場です。多様な分野の研究者・技術者が集い、相互のコミュニケーションの活性化を図ることで、互いの経験や知識を融合させ、さらに高度な技術の創出を促しています。



① 最先端で高性能な分析機器を備えた「イノベーションエリア」。
② 研究者が交流する「コミュニケーションエリア」には、自由に議論できるスペースや、発想の転換を促す書籍コーナーなどを設けています。③ 「ICTエリア」では、スーパーコンピューターにアクセスして、医療ビッグデータの解析などを行うことが可能です。

多様なパートナーとともに
革新的な技術の創出を
目指しています。



研究開発企画本部
R&D 推進部長
おおやま やすひろ
大山 康浩

社外の研究者との共同研究開発により 個別化医療への取り組みを加速

近年、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」への期待が高まっています。個別化医療の実現に向けて、当社も先進的で価値の高い検査・診断技術の創出に取り組んでいますが、当然ながら、社外には当社にない技術や知識、アイデアを持たれている研究者の方が数多くいらっしゃいます。そこで、社外の研究者の方々が保有されている技術・知識と、当社の技術を融合し、新たな価値を生み出す共同研究開発（オープンイノベーション）を推進する場として、テクノパーク内にオープンイノベーションラボ「SOLA」を開設しました。

SOLAに社外の研究者の方々をお招きするようになってからは、当社の研究者とのコミュニケーションがより促進され、“知の融合”が図られています。また、同業種・異業種の企業とのコラボレーションも増えています。例えば、株式会社

JVCケンウッド様とは、血液中などに存在する「エクソソーム」という微粒子を対象に、がんの早期発見などにつながる画期的な検査・診断技術の共同開発を進めています。他にも、研究の初期段階のものから実用化を控えたものまで、複数のプロジェクトが進行中です。

融合を促すオープンな環境と 多様な人材が、技術創出をサポート

SOLAには、最先端の分析機器やICT*関連設備、当社の最新の検査機器など、研究者の方々にとって魅力的な設備を整えています。しかし、より特徴的なのは、さまざまな研究者の交流を促すオープンな環境になっていることです。偶発的な出会いや議論が自然に生まれるような環境にすることで、研究者同士が互いに刺激を与え合い、1+1から無限大の可能性が生まれることを期待しています。

また、SOLAをご利用いただく社外の方々にとっては、当社の人材や経験・知識を活用できることも、大きな魅力となっているようです。SOLAは、当社の研究開発の中核拠点であるテクノパーク内にあります。テクノパークには、機械、生物、化学など、多様な専門性を持つ研究者・技術者に加え、知的財産やマーケティングなどに精通した社員もいます。困ったことがあれば、すぐに意見やアドバイスを求めたり、実用化に向けた相談ができるスペシャリストが揃っています。

医療分野の研究開発においては、患者さんの役に立つ優れた可能性を秘めた技術がありながらも、実用化になかなか結びつかない例も少なくありません。しかし、SOLAを通じてこのような技術革新の“種”を、実際に医療の現場で使ってもらえるものへ迅速に変えていくことができると期待しています。多くの“種”から価値ある“花”を咲かせることができるよう、社外のさまざまな研究者の方々とともに研究開発を進め、一日も早い革新的な医療の提供を目指していきます。

POINT 1 社外に開かれた共同研究開発の場「SOLA」

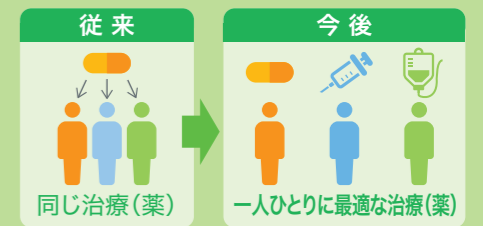
個別化医療の実現に向けた研究開発の取り組みを加速させるため、社外の研究者との共同研究開発を行う場として「シスメックス オープンイノベーションラボ」を2015年に開設。当社の技術基盤である「遺伝子」「タンパク質」「細胞」をテーマに、共同研究開発を進めています。英語表記 (Sysmex Open Innovation Lab.) をもとに、「SOLA (ソラ)」の略称で親しまれています。



テクノパークのR&Dタワー内にある「SOLA」

POINT 2 一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」

病気の状態は、患者さん一人ひとりによって異なるため、同じ病気であっても同じ治療法を適用することは必ずしも正しくありません。そこで近年では、遺伝子を解析する技術をもとに、病気の発症リスクや薬の効果などを予測し、一人ひとりに最適な治療や薬を提供する「個別化医療」へのニーズが高まっています。



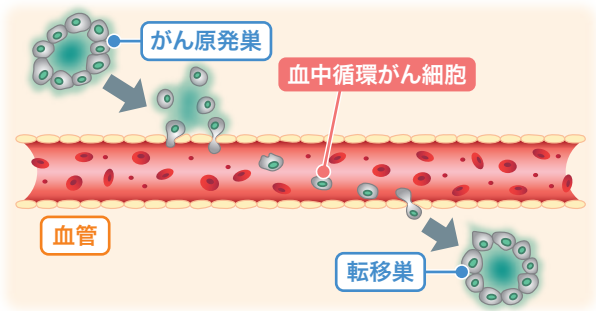
*ICT: 情報通信技術。



アステラス製薬・第一三共と 血中循環がん細胞の解析法の 構築に関する基本合意書を締結

血中循環がん細胞は、がん組織から遊離し、血液にごくわずかに存在するがん細胞で、他の臓器への転移を引き起こす可能性があると考えられています。このため、患者さんの病態をより正確に予測し、適切な治療を提供するうえで有用な情報が得られる可能性が期待されており、その解析法に関して、世界中でさまざまな研究が行われています。

このたび、アステラス製薬株式会社、第一三共株式会社と、血中循環がん細胞の解析法の構築を目的とした共同研究を進めるための協力体制の構築に関する基本合意書を締結しました。共同研究を通じて血中循環がん細胞の解析法を確立することにより、患者さんの負担が大きい生体検査をせずに、血液検査でがん細胞を発見することが可能となる革新的な医療の提供を目指します。



「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ ワールド・インデックス」に初選定

ESG投資*の指標として世界的に有名な「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」の構成銘柄に初めて選定されました。今年度は全世界で316社、うち日本企業は26社が選定されましたが、ヘルスケア機器・サービスセクターにおいて、日本企業では唯一当社が選定されています。今後も持続的な成長を続けていくため、積極的にCSR活動を推進していきます。



*ESG投資：
環境 (Environment)、
社会 (Social)、企業統治
(Governance) の
3つの側面で優れた経
営を行っている企業に
投資すること。

女性活躍推進法に基づく 優良企業認定マーク「えるぼし」を取得

当社は、社内託児所の設置や法定以上の育児休業等の整備をはじめとして、多様な人材が安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。このたび、女性活躍推進法に定められた全ての評価項目を満たすことで、女性活躍推進に関する優れた取り組みを行う企業として評価され、認定マーク「えるぼし」の最高位を取得しました。今後も引き続き、性別や国籍などを問わず、従業員一人ひとりの人格や個性を大切に、安心して能力が発揮できる環境づくりを進めていきます。



会社概要

(2016年12月31日現在)

■商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
■設立年月日 1968年2月20日
■資本金 114億7,161万円

■格付け A+ (R&I: 格付投資情報センター)
■従業員数 7,846名(連結) 2,575名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む
■主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連
ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会 6月
■基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■公告方法

当会社の公告方法は、電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載ホームページアドレス www.sysmex.co.jp/ir/

■上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
■証券コード 6869
■単元株式数 100株
■株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
■同連絡先 (郵便物送付先・電話照会先)
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

お知らせ

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。